

本書を読破されたあなたにお届けする特別トピック

MU GEN — RYOKU

夢現力追加レポート

東京ディズニーランド、大阪万博など数々のプロジェクトを大成功させた
伝説のプロデューサー堀貞一郎の教え！



このレポートでは、ページ数の都合で「夢現力」に掲載できなかった
4つのトピックを特別に公開しています。

まだ本書を読み終わっていない方は、まずそちらを最後までお読みください。
その続きとしてこのレポートを読まれると、5つの力との関係性などもよく分かり、
いっそう理解度が促進されます。



ビジョナリーパートナー 和仁達也

<http://www.wani-mc.com>

目次

はじめに。私が堀先生の言葉を本にした理由

1. 夢を持とう。資格はその夢を実現させる武器の1つだ <ビジョン構築力>

Q. 10年後の夢を実現する手段として、どんなスキルや資格が必要ですか？

2. 目的に合った会社形態になっているか <人間関係力>

Q. あなたの会社は、事業の目的に合致した形になっていますか？

3. 【考える】とは、脳細胞を活性化する頭のトレーニングである

<アイデア創造力>

Q. 今、身の周りにある小物を手にとって、1分間ずっと語りつづけられますか？

4. 脳を休めることも大切だ

<アイデア創造力>

Q. 仕事から少し離れて、脳を休める手段を持っていますか？

最後に。本書を読んでいただいたあなたに著者からのメッセージ

はじめに。私が堀先生の言葉を本にした理由

はじめは自分の勉強が目的だった。

堀先生の功績については本書で詳しくお伝えしていますが、**日本初のTVプロデューサー**であり、映画評論や大阪万博のプロデュース、「**手を上げて横断歩道を渡ろうよ**」の交通標語をつくり浸透させた交通事故防止キャンペーンの成功、そして**東京ディズニーランドの総合プロデュース**と多岐に渡ります。しかもそのどれもが今日の日本になくてはならない程、生活に根ざしています。

その堀先生は現在、75歳。その凛とした容姿、若々しさに満ちたエネルギーと情熱、声優かと思わせる程の低音で温かみのある魅力的な声からは、年齢を全く感じさせません。その堀さんは、今なお講演活動を通じて、多くのビジネスリーダーたちに直接語りかけている毎日です。ところが、意外にも堀先生自身の人生観や仕事の姿勢については本人の口から多くを語られることはありませんでした。それは、堀先生の考えをそのまま活字にすると、その意図が正確に伝わらなかったり、場合によってはいわゆる自慢話のように聞こえてしまう恐れがあることを避けたかったのかも知れません。堀先生は自身が目立ったり、他から評価されることは望んでいませんが、実質的に世の中のためになるために尽力したいとの強い思いを持たれています。

そこで、僭越ながら私が珠玉の堀語録を書き留め、夢と希望に燃えている多くのビジネスリーダーたちと分かち合えたらと思い、筆をとりました。**はじめは私自身が堀先生の考え方やもの見方を学びたいというところがきっかけ**でした。そこで、私が主宰する交流会「わにかい」で堀先生に毎年講演をお願いしました。それを2年、3年と繰り返すうちに、そこでのお話があまりにも多くのビジネスマンの力になると確信したのです。そこで、堀先生に出版化を提案しました。最初、私はダメ元のつもりでした。しかし、堀先生は意外なことを言われたのです。

「面白いですね。せっかくなので、あせらず1年ぐらいかけて月に1回、あなたと直接対談しながら、楽しく作っていきましょう。あなたが質問を投げかけて、私が答える。日本を元気にするような本にしたいですね。」

こうして1年半に渡るこの本の制作が始まりました。この本では私、和仁自身の課題、あるいは

私のクライアントや知人の悩みを堀先生に問い掛けています。その多くは、あなたの悩みと重なるかも知れません。そこで、この本はあなたの目の前に堀先生が居て直接アドバイスを受けているかのような効果を得られるように工夫をしました。また、より理解が進むよう、私や知人の具体例を織り交ぜながら構成しています。

この本のタイトルは「**夢現力**」。あなたの夢を実現させるための力を与える本です。この意味を少しご説明します。堀先生の成功の秘訣を紐解いていったところ、主に5つの力が夢の実現に寄与していたことが分かりました。



①ビジョン構築力

夢を実現したければ、まず最初にビジョンを構築することです。今すぐ動き始めたいくなるようなワクワクするビジョンを掲げる力が必要です。

②人間関係力

ビジョンを実現したくても、それに協力してくれる人がいなければそれは困難です。また良好な人間関係から生まれる会話が、時として素晴らしいアイデアを生み出します。

③アイデア創造力

前例の無いアイデアを自ら生み出すにはどのような切り口を持てばよいか分かります。

④自己管理力

やるべきことが分かったら、それを実行するためにいかに自分をコントロールするか、そしていかに時間を活用するか。その方法論を知る必要があります。

⑤国際対応力

グローバル社会に突入している今、日本の常識の中だけで生きていてはもはや世界からは相手にされなくなります。「日本の常識は世界の非常識」とすら言われることもしばしばです。そこで、国際社会で活躍できるビジネスパーソンとして必要な考え方を身につけます。

この5つの力を総称して「**夢現力**」と名づけました。本書を手にとったあと、1つ1つのトピックがあなたに夢と勇気と希望を与えていくことでしょう。

1. 夢を持つ。資格はその夢を実現させる武器の1つだ

Q. 10年後の夢を実現する手段として、どんなスキルや資格が必要ですか？

やりたい仕事を主体的に考えたときに、手段として資格が必要なことがあります。例えば、医者になりたいければ資格がいるし、弁護士や税理士もそうです。この資格試験のハードルが高いので、いつの間にか資格を取ることはばかりに焦点が集中してしまい、その先のことをイメージする人が少なくなってしまうように思います。でも、本当は夢がありきで、それに必要な資格を取るだけのことなので、理想の姿をイメージすることは実はとっても大切なことです。

もし医者になりたいのであれば、どんな医者になりたいのでしょうか？患者さんとの接し方はどうしたいのでしょうか？そしてどのように感謝の言葉をかけてもらいたいのでしょうか？どんな分野で造詣を深めたいのですか？仲間達との関係はどうでありたいですか？どんな施設や環境の中で働きたいのでしょうか？収入はどれくらい欲しくて、それによって家庭の生活レベルはどうでありたいのでしょうか？

それがワクワクするものであればあるほど、資格を取得するエネルギーも湧いてこようというものです。もし理想に近い人が身近にいれば、さらにイメージもしやすいでしょう。堀さんは言います。

「人生を楽しむ上で大切なことは、ちゃんと自分として誇りを持って生きていこうとすることじゃないですか。誇りを持って生きていこうとするためには夢が無くちゃいけない。その夢に向かって、はしごを掛けなくちゃいけない。そして次にいろんな道具を使ってはしごを登るのですが、道具があるだけでは登れやしません。はしごや道具はただあるだけでは意味がない。自らの足で歩かなくてはいけないし、例えばはしごを支えてくれる人、すなわち協力者も必要かも知れません。」

自分の夢か資格か、どちらが主体性を持つか。まず自分の中に夢や規準があって、次にそれに必要な道具の1つとして資格を身に付けよう、という順番ですよね。それが頭では

理解したつもりでも本当は分かっておらず、その順番を間違っている人。あなたの周りにいませんか？

【夢現力とは】=====

資格の取得とは、夢に近づく武器を1つ手に入れたに過ぎない。自分の夢か資格か、どちらが主体性をもつか。本来夢がありきで、資格はそのための手段でしかない。夢が資格に食われてしまわないよう気をつけよう。

=====

2. 目的に合った会社形態になっているか

Q. あなたの会社は、事業の目的に合致した形になっていますか？

会社というのは経営者のビジョンを実現するための手段であり、その目的によっていろいろな形態があって良いと思います。例えば同族会社には同族であることのメリットがあるはずで、ところがずっと同族でやってきた会社に新しい社員が増えてきて、「今まで通りのシステムではなりたない」と悩んでいる会社は少なくありません。身内と一般社員との公平な処遇をいかに行うか、で苦悩しているようです。堀さんは言います。

「同族会社として、なぜ一族でこれをやっていこうとしているのかということ、もう一度考えた方がいいですね。日本の伝統とか、自分の家の家族の系譜とか、その歴史を守ろうとしているのであれば、同族会社は悪いものではないんです。日本は同族会社によって伝統が守られているんだと思うんです。同族会社の悪いことがあるとすれば、血縁だけで人の富をむさぼろうとしていることなんです。人を利用しようとしていることなんです。一族の誇りを中心に人を育てようと思ったら、決してそんなことではないでしょう。」

「だから昔ながらのように、ご主人は同族から出した方がいい。その代わり人を引きつけるのに技量も大切ですが、人格が大切な時代なんです。だから同族会社に求められるのは哲学と人格なんです。誰が見たって、『あの人と一緒にいきたい。あの人を社長にして、自分はその下で働きたい。』そう思われるだけの人になるように努力する必要がある。親族に金銭的に優遇する必要はまったく無いでしょう。だって目的が違うんだから。だから一度、そのことを考え直す必要があると思いますね。」

同族の中小企業では、「公私混同してしまって、それは良くない」というイメージも確かにあるのですが、目的や哲学を明確にして同族会社を運営するのであれば良いですね。

「要するに社会性のある哲学があれば、同族会社だって決して悪いことはない。なぜ同族会社は悪くないか分かりますか？それは、科学的にいろんなことが分かっているからです。例えばDNAで、その才能というのが継承されているでしょう。だからその継承

されている一族をバラバラにしてしまうというのはもったいないですよ。そういう中小同族会社が大きくなろうとすれば、絶対無理がある。ですから目的をもう一度見直して、それで例えば同じ技術を持っている人がいたら、それを大事に使う。しかし経営はその長年の経験を基にやっていくということでもいいんじゃないでしょうかね。」

公企業に発展して、社会的な責任をまっとうとしていこうと思ったら、それはそれでいいのですが、そのときには、もう私企業としての同族意識をきっぱりやめる必要があるということです。目的が違ってしまいますから。

「同族会社のいいところは、その一つが、今言ったDNAを継承していくことができること。例えば陶芸とか塗り師とかね。歌舞伎だってそうですよ。『歌舞伎の役者は世襲しているのはけしからん』なんて仮に言ったって、いきなり外から来たってできないですよ。役者と話していると、ほんとすごいですから。もうずっと受け継がれているからできるのです。よそから入ってきたって急にはできないですよ。そういうふうに伝統を守るということはすごく大事なのです。それを、大きな会社にしてしまったら、うまく行くわけがないですよ。それから**一族の財産を守るという目的**もあるじゃないですか。だから同族会社が悪いわけはまったくない。また**DNAの問題として、日本の伝統的なものを残す目的**もある。この二つのことを考えると、同族会社は大事だと思います。もう一度、自分の企業の目的というものを考え直したらどうでしょうかね。そうすると、もうちょっと見えてくるんじゃないですか。」

別会社をつくって、そちらのほうは公企業にするというのは、とても理にかなっている感じがしました。一緒にごちゃ混ぜにして考えるからおかしくなってくるのです。

【夢現力とは】=====

同族会社は悪いものではない。同族会社によって伝統が守れることもある。悪いことがあるとすれば、血縁だけで人の富をむさぼろうとしていることだ。人を利用しようとしていることだ。一族の誇りを中心に人を育てようと思ったら、決してそんなことはできないはずだ。****

=====

3. 【考える】とは、脳細胞を活性化する頭のトレーニングである

Q. 今、身の周りにある小物を手にとって、1分間ずっと語りつづけられますか？

日頃、【よく考えている人】と【考えていない人】がいます。その違いはどこにあると思いますか？私はその違いの1つは「自分に投げかける質問の仕方」にあると考えています。例えば何かアイデアを考えるとときに、【よく考えている人】は、あらゆる角度から視点を思いつき、その視点に沿って考えていきます。

「このプロジェクトを成功させるために、目標設定はどうでしょうか？組織構成はどうでしょうか？期限は？予算は？リスクは？誰にアドバイスを求めようか？・・・。」
というように、具体策にたどり着く前に、具体策を引っ張り出す引き金を自分に投げかけていくのです。

しかし、【考えていない人】は、ただ漠然と、
「このプロジェクトを成功させるために、どうでしょうか？」
という、極めて抽象的な質問を何度も繰り返し自分に投げかけているのです。

抽象的な質問を投げているので、抽象的な答えが返ってきます。それではちががかなないので、再び抽象的な質問を投げかけます。すると、再び抽象的な質問が返ってきます。それを10分ぐらい続けていると、頭が真っ白になって、「私にはわからない」という結論が出るのです。これは、【考える】方法を知らないための悲劇だと思います。堀さんは「【考える】ことは、エクササイズと同じだ」と言います。

「【考える】とは、こういうことです。（とテーブルの上のコップを取り上げて）たとえばこのコップを見て、ありきたりのコップだと思ったとしても、『上から見たらどうか？どういう使い方を考えてこういうデザインにしたんだろう？このコップは割れやすいんだろうか？このコップはいくらなんだろう？メーカーはどこなのか？』と、いくらでも【考える】ことはあるでしょう。そういうふうに周辺も全部考えてみるわけです。今コップの例だとあまりおもしろくないけれども、なんでも考えられるんです。【考える】と調べたくなることも出てくる。そして調べると、また【考える】ネタが出るわけです。」

「たとえばここにお砂糖がある。『このメーカーはどこなんだろう？帝国ホテルで、グラニュー糖だ。販売者は帝国ホテルだけれども、これをどうやって採用しているんだろうか？これはどこにも元のメーカーが書いていない。ということは、このお砂糖に黴菌が入っていたら帝国ホテルは責任を負うんだろうか？』とか、いろいろあるではないですか。だから何でも考えられるのです。こうやって考えていくと、毎日毎日つまらないことの集積が非常におもしろいことになる。だけどこれはかなりのトレーニング、エクササイズです。エクササイズってもともと意味がないことをやっているのですから。」

たしかに、スポーツクラブのエアロバイクも、やっていることはただ、その場で自転車を漕いでいるだけ、です。体を鍛えること以外に、何も生み出していない。そういう意味でいえば、意味がないことをやっています。

「そう、意味のないことをやっているんです。それと同じで、【考える】というのは意味のあることを考えなければいけないとみんな思っている。だけど私が言っている【考える】というのは脳細胞を活性化するのが目的ですから、意味がなくて良いのです。だから右脳、左脳、両方でいろいろ考える。そのためには音楽を聴いたり、好きな絵を見たり、小説を読んだり、小説をずっと読んでいてもいいんです。というのは、その小説をずっと読んでいて、ただ機械的な読書ではなく、1節読んだら、そこから考えてもいいんです。その小説を鉄アレイと同じように、頭のトレーニングに使うのです。だから広告からも新聞の1コマからも、先ほど言ったように、『この記事はちょっと違うのではないか？』とか考えをめぐらせていくのです。」

つまり、アイデアを生み出す脳をつくるためには、筋肉を鍛えるために腕立て伏せをするように、脳を鍛えるための【考える】トレーニングが必要ということです。

【夢現力とは】=====

【考える】というのは意味のあることを考えることだとみんな思っている。しかし、**脳細胞を活性化するのが目的で【考える】なら、そこに意味がなくてもよい。【考える】こと自体が目的である。脳細胞のトレーニングは筋力のトレーニングと同じである。**

=====

4. 脳を休めることも大切だ

Q. 仕事から少し離れて、脳を休める手段を持っていますか？

考えられない人が【考える】トレーニングをすることが大切な一方で、考えたくなくても勝手に脳が考えてしまう場合もあります。特に重要な案件をかかえていて、それが気になって仕方がない場合など、頭をボーっと休めたくても休められないことがあります。大きな失敗をしたときや気がかりなことがある夜、眠りたくても眠れないという経験は、あなたにもあるのではないのでしょうか。そのとき、プラスな方向に思考が走るのならまだいいのですが、問題はマイナスに向かって走り出したときです。私の知人の中にも、放っておくとすぐにマイナスの方向で走り続けようとする人がいました。そのとき、私は方向転換を促す質問を投げかけ、あるいは全く違う話題を投げかけ、彼の思考が暴走するのをストップさせます。

また現代は心の病が非常に多く、鬱やノイローゼになる人が割と身近にいたりします。このような心の問題は、決して人事ではありません。特に、経営者のように日々緊張とストレスの中に生きている人は、自分の脳を大事にし、脳を休める手段を持つておくことが大切です。

そういうときの脳の休め方について、堀さんは次のような手段を持っています。

「まず、脳を鎮める事を意識するわけです。『今、寝ようとしているのに仕事のことで頭が動いているぞ。今はトレーニングの時間じゃないのだから脳を休めよう』と深呼吸をして、全然別のことを思い浮かべる。何でもいいのです。たとえばヴィヴァルディという沢山の音楽を作ったお坊さんのことを考える。僧院が見えてきて、坊さんが一生懸命オルガンを弾いている。そうすると仕事の妄想がどこかに行っちゃうじゃないですか。それで消してしまうわけです。」

無理に消そうとしなくても、仕事以外のものが頭に出てくれば、自動的に仕事のほうは消えるということですね。

「そうです。頭から何かを消そうというのは無理ですから、別のものを考えることで消す。これを意識転換と言っています。」

「たとえば、じっと手を見してみる。手を見るとすごくおもしろい。僕ときどき外でふと考えたときに、葉っぱを見えています。これは何の葉っぱに似ているとかね。だから考える上で場所に困らないでしょう。ここにも葉っぱはあるし、どこにもある。意識転換するために見るものはたくさんあるんです。そうしないと精神が健全ではなくなってしまうんです。だからいつも自分の心を取り戻して、空想していく。」

人はマイナスのことを考えて思いつめているとき、心の中で否定的な言葉をもものすごいスピードで膨大な回数を自らに浴びせ掛けていたりします。それを放置しておく、心の健全性が損なわれてしまう。だから、趣味や気晴らしも必要です。ただ、忙しくてそれすらできない人もいますよね。そういうときこそ、このようなちょっとしたエクササイズをやってみてはどうでしょうか。

【和仁 's トピック】

私は仕事の難題を頭に抱えたまま帰宅をし、妻の話をいい加減に聞き、それがもとで夫婦喧嘩になったことがたびたびありました。頭の切り替えは意識しないと難しい。そこで、脳の冷却タイムを場所を決めて確保することを思いつきました。毎回同じお店の同じ席に座る。するとそれがアンカーとなり、自然と気持ちが切り替わるようになりました。世の中の流れがますますスピードアップしている今、定期的に【立ち止まる時間】が必要だと痛感しています。情報化社会では、自ら意図的に立ち止まる努力をしない限り、立ち止まる機会はありません。そして事件やトラブル、病気などによって、ある日突然強制的に立ち止まらされることになるのです。ならば、そうなる前に主体的に立ち止まってはどうでしょうか。

【夢現力とは】=====

頭から何かを消そうとしても消せないことがある。思考を止めたくても止まらないこともある。そのときは、別のものを考えることで消すのだ。それを意識転換と言っている。

=====

最後に。本書を読んでいたあなたに著者からのメッセージ

この特別レポートを最後までお読みいただき、ありがとうございました。私はこの本を世に出すプロジェクトが実現したことを心から喜び、その実現に協力していただいた皆さん、そして読者のあなたに本当に感謝しています。この本を読んでくださる方がいるからこそ、こうして出版が実現しました。

私はこの本の執筆にあたり、いくつかの目的を持って書き進めました。

- 1) 私自身、**堀先生の思考回路**を身につけ、**実際のビジネスで成功をおさめる**こと。
- 2) その成功の秘訣をまとめた本書を、次の人たちにも読んでもらい、やはり成功をおさめてもらうこと。それは、当社の社員、クライアントや経営者の友人、独立を志す友人や後輩、パートナーやブレインである専門家の皆さん、大切な家族、そしてその他の**私に関わる前向きで成長意欲の高い全ての方**を想定している。それは、これから出会うであろう読者のみなさんも含めて考えています。
- 3) 戦後の日本を創ってきた1人である堀先生の珠玉の知恵を後世に残し、人びとの**人生に基軸を与え、ぶれることのないワクワクした人生を送る**一助となること。
- 4) そして、この本を読んだあなたや社員の皆さんが元気になり、あなたの会社はもちろんのこと、取り巻く周りの会社が発展し、その結果、**日本が夢と勇気と希望にあふれた元気のある国になるための起爆剤**となること。

これらの夢が1つでも多く具体化することを願っています。そして、本書を繰り返し読まれることであなたの夢が実現し、素晴らしい人生を送っていただけることが私の願いであり、堀先生の願いであると信じています。

2004年5月吉日

ビジョナリーパートナー 和仁達也

<http://www.wani-mc.com>